

土壤改良資材の局所投入による 極早生ウンシュウミカンの樹勢向上

果樹試験場

研究のねらい

極早生ウンシュウミカン「ゆら早生」は品質が優れ、産地への導入が急速に進んでいますが、従来の品種に比べて樹勢が弱いため、新梢・根の伸長を促し、樹勢増進と収量安定を図ることが課題です。樹勢増進には樹冠直下への溝式深耕と、土壤改良資材の投入が有効です。

研究の成果

- ①パーライトとピートモスを混合した資材を樹冠下に埋め込みます（図1）。この資材は、水分を充分含ませた状態でも過湿にならない反面、長期にわたって水分を多く保持します。
- ②活性の高い細根が発生し、春梢伸長と葉面積拡大が促されます（図2、3）。

成果の活用面・留意点

- ①樹勢の増進には、適正な枝梢管理、摘らい、強めの摘果との組み合わせが不可欠です。
- ②既存の根をあまり傷めないように注意しながら、既存の根に接するように処理します。
- ③降雨後に水が溜まるような排水性の悪い箇所や、表層根が多い箇所は避けます。



幅20cm×長さ40cm×深さ20cm
1ヵ所につき、資材16リットル

図1 深耕と資材投入方法

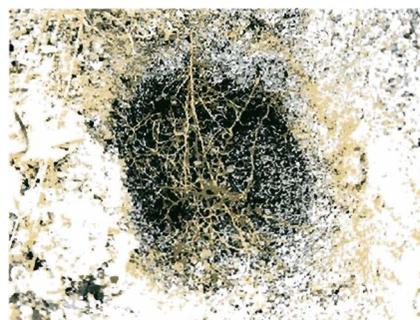


図2 処理16ヵ月後の発根状況

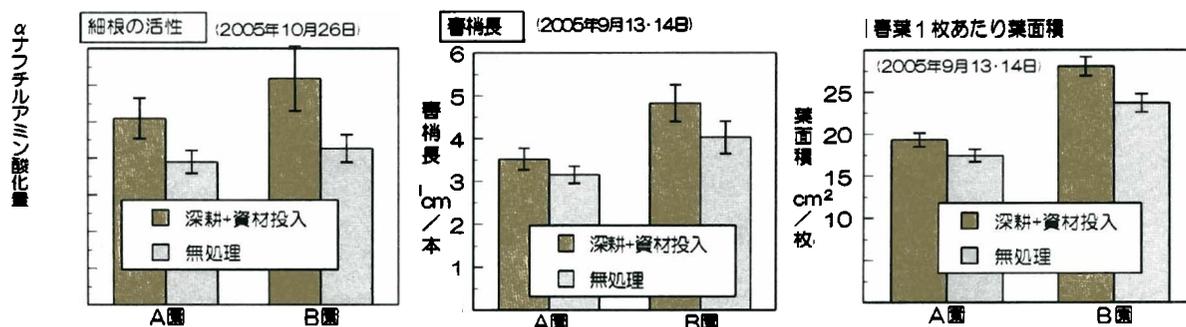


図3 細根の活性、春梢長および葉面積の比較 (2004年7月2日処理)

(問い合わせ先：0737-52-4320)